



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高山敦也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

第58回日本医学検査学会 終了!

第 58 回医学検査学会が、平成 21 年 7 月 30 日(木)～8 月 1 日(土)を会期に、開港 150 年に沸く横浜の“パシフィコ横浜”を会場に開催された。日臨技と神奈川県臨床衛生検査技師会との共催公益事業として“ケンサ EXPO'09”も同時開催され反響を呼んだ。学会参加者は、3,600 名を数え、試薬・機器展示会も 2 日間で延 36,024 名、“ケンサ EXPO '09”は実に 53,571 名の入場を見た。

学会長式辞

第 58 回日本医学検査学会長 米坂知昭

第 58 回日本医学検査学会の学会長として一言ご挨拶を申し上げます。

本学会は、「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるのか？」をテーマに掲げ、私たち臨床検査技師が自らを問う学会と位置付けました。

医療技術の進歩は目覚しく、自己研鑽は勿論のこと、チーム医療における臨床検査技師としての役割も重要となり、その責任も重くなってきました。そこで、今回の特別講演は「遺伝子検査の標準化と新たな展開」と題し、東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学教授の宮地勇人先生に先端医療のトピックスについてご講演いただき、神奈川県厚生連相模原協同病院院長の高野靖悟先生には「高度医療への臨床検査技師チームの参画」について、市中病院での生体肝移植の経験を実例に、一般病院における医療レベルの高度化が現実化している中、チーム医療における医療技術者の役割をお話いただきます。

また、健康社会へ向けた臨床検査技師の一般市民・国民への直接的な働きかけが重要との視点から、岩室紳也先生（社団法人 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長）には「若者たちの性感染症の現状と予防に求められる視点」についてご講演いただきます。これまでも多くの都道府県技師会が実施してきた性感染症撲滅に関する事業展開に役立つものと思っております。

更に、新たな試みとして、神奈川県臨床衛生検査技師会が主催し、日本臨床衛生検査技師会および関東甲信地区臨床衛生検査技師会の共催を得て実施する「ケンサ EXPO'09」は、これからの社会貢献の一例として十分な効果があると考えております。実際、メディア等の取材、報道により本日の来場者が対応に苦慮するほどとなったことは予想以上の展開となりました。

開港 150 周年を迎える横浜の地で、第 3 回 AAMLS 学会と本学会が同時期に開催できましたことに感謝申し上げますとともに、今後の臨床検査の発展に向け「ケンサ元年」と銘打ち、新たな一歩を踏み出す先掛けとなり両学会が盛会裏に終わりますようお願いいたします。

最後になりますが本学会の開催準備から運営にかけ、齋藤幸弘実行委員長はじめ、神奈川県臨床衛生検査技師会の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。



主催者挨拶

社団法人日本臨床衛生検査技師会長 小崎繁昭

本日、此処に社団法人神奈川県臨床衛生検査技師会のご尽力により、第58回日本医学検査学会を横浜開港150年の記念すべき年に開催するにあたり、日本臨床衛生検査技師会を代表し一言ご挨拶申し上げます。

まず以って、ご多用中にもかかわらず、式典にご臨席賜りました大韓臨床病理士協会安会長をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

本学会のメインテーマであります「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるか」は、新しい健康社会、長寿高齢社会へ臨床検査がどのように係り、情報発信するとともに困難な時代を乗り越え切り拓く斬新な発想を期待して掲げた時宜を得たテーマであります。

今学会には526の研究演題をエントリーいただきました。研究発表者の日常検査業務多忙のかたわら研鑽を積み重ねた研究成果であり、高く評価し敬意を表する次第です。

招待講演は、数々のヒット曲を世に送り出し阿木耀子先生の「自分らしく生きる」と題したご講演で、多くの会員に共感を与えたものと存じます。また、特別講演、ランチョンセミナーは、先進・高度医療における臨床検査の最前線から新技術の紹介等将来我々が進むべき方向性を示していただいたものと確信しています。

当会は、昨年大韓臨床病理士協会とともに札幌市において日韓協定締結30周年記念式典を挙行いたしました。日韓交流の更なる拡大を目指し、今後も情報交換を密に技術交流に勤める所存であります。

今回、学会と併設し開催している分析機器、検査試薬等の展示には厳しい医療環境にもかかわらず臨床検査関連業界91社のご支援、ご協力をいただき、新製品の数々を紹介していただいています。会員の皆様は、演題発表、聴講の間に是非とも展示場に足を運んでいただき、新機器や試薬等の情報を入手していただきたく願っております。

学会を担当して・・・

第 58 回日本医学検査学会実行委員長 齊藤幸弘

第 58 回日本医学検査学会（学会長：米坂知昭）は、(社)神奈川県臨床衛生検査技師会が担当し、開港 150 周年でにぎわう横浜市のパシフィコ横浜において平成 21 年 7 月 30 日(木)・31 日(金)・8 月 1 日(土)に開催しました。

開催前の 5 月、世界中が新型インフルエンザで混乱する中、学会までに終息するのか？開催を中止しなければいけないのか？大きなイベント開催を控え不安な日々を過ごしてきましたが、無事開催することができホッとしております。

真夏の開催のため参加人数への影響も心配でしたが、パシフィコ横浜の総合イベント会場を使用したことにより学会参加者は 3,600 名を教え、機器・試薬展示発表会へは延べ 36,000 人を超える方が入場され活気あふれる学会となりました。

今回、同時開催として第 3 回 AAMLS 学会、ケンサ EXPO'09 が企画されたことにより一部混乱を招いたことは事実であります。何とか準備も整い、多数の方に学会へ参加をいただき無事終了したことを心から感謝致します。

今学会は、「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるのか」をテーマに進めてきました。今までどおり医療の中での検査も重要であります。これからの健康社会を目的とするために私たち臨床検査技師はどのような事を考えれば良いのか、その一例となるよう、神奈川技師会特別企画として企画させていただきました。このようなことが例となるかはわかりませんが、一つのきっかけとなればと思っております。

臨床検査技師の貢献、「臨床検査技師、こんなこともしています」「地域への貢献」「医療チームへの参画」「知識で STD を撲滅しよう」など、神奈川県臨床衛生検査技師会が事業として行っている内容も含めいろいろ紹介をさせていただく機会を得たことでまた新たな発想が浮かんで来る気がします。

招待講演には、横浜出身である作詞家の阿木耀子さんを迎え「自分らしく生きるために」をテーマにお話をいただきました。

特別講演では、宮地勇人先生に「遺伝子検査の標準化と新たな展開」、高野靖悟先生に「高度医療への臨床検査技師チームの参画」、岩室信也先生には「若者たちの性感染症の現状と予防に求められる視点」をお話いただき、神奈川企画と連携する内容での講演となりました。

この 3 年間いろいろな企画や準備を進めてきましたが、実行委員は約 40 名と少なく、実務委員として臨床検査技師養成の専門学校へご依頼し、2 年・3 年生約 90 名に授業の一環としてお手伝いをお願いしました。当初不安もありましたがさすが将来の検査技師、大きな問題もなく 2 日目には堂々と役務を遂行し感心させられました。

学会を担当し、全国から来た会員および展示発表会にご協力いただいた賛助会員の皆様にお褒めの言葉を頂いておりますが、不届きな点がございましたらこの場をお借りしお詫び申し上げます。

学会開催 3 日間のための 3 年間はあっという間に過ぎ、いずれ良き思い出となる事と信じております。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた(社)日本臨床衛生検査技師会と全国の会員の皆様に感謝致します。

神奈川特別企画・・・

今回、開催県として神奈川特別企画を計画した。臨床検査技師は病院の検査室の中で来た患者・検体を待っている。そんなネガティブなイメージを払拭し検査室から病院内にもう一步先の地域で新たな事業を展開している事例を取り上げ、臨床検査技師として貢献できること、さらには知名度アップにつながる事例を神奈川県から全国に発信することを目的に企画した。

◆特別企画 I

「臨床検査技師の貢献 臨床検査技師こんなこともしています」は、まったく新たな事業展開として開かれた検査室を目指し、検査室の存在性・必要性・重要性を病院内に広くアピールすることを実践的にしている事例を紹介していただいた。

◆特別企画 II

「臨床検査技師の貢献 地域への貢献」は、(社)神奈川県臨床衛生検査技師会が年間の行事の一環として実施している生活習慣病撲滅委員会の活動、心電図ボランティア、地区サーベアの実際、横浜市夜間救急医療センターの業務支援に関して報告と問題点について紹介していただいた。

◆特別企画 III

「臨床検査技師の貢献 医療チームへの貢献」は、病院は多くの国家資格を持った集団である。臨床検査技師は臨床検査のプロとして医療チームの一員として施設の中で活躍している事例を紹介していただいた。

◆特別企画 IV

「臨床検査技師の貢献 知識で STD を撲滅しよう！」は、先進国で唯一 HIV 感染者が増加している日本において、STD 撲滅に向けて街頭キャンペーンやイベントを各技師会でも実施している。

神奈川県では STD 撲滅委員会を立ち上げ臨床検査技師が直接中・高等学校に出向き「出前授業」を行っている。今回は東京都・千葉県の技師会の担当者にも講演をお願いした。

特別企画を参考に臨床検査技師だから出来る業務を見つけていただければ幸いです。

【瀬戸享往】

開会式で日韓交流功労者表彰

前大韓臨床病理士協会長 宋雲興 氏が受賞

学会開会式が、7 月 31 日(金)午後 6 時 20 分より行われた。米坂知昭学会長の式辞に続き、主催者を代表して日臨技小崎繁昭会長が挨拶した(1 ページ参照)。

次いで、来賓として出席された(社)大韓臨床病理士協会安勇虎会長からお祝辞を頂戴した。会長は祝辞の中で「今学会を通じて両国の協会が未来指向的な関係に成長し、継続的な交流が出来ますよう願っています。・・・参加するたびに常に感じますが、先進的な学術大会のプログラム、体系的な行事運営、会員の積極的な参加意欲など、学術的な活動は我々訪問団には感動的であり、良い意味でのライバルで、我々が振り向く動機を与えてくれました・・・」と述べたのが印象的であった。次に日韓協定に基づく、交流功労者表彰が行われ、前大韓臨床病理士協会長の宋雲興氏が受賞され小崎会長より表彰状が渡された。

開会式では、日本の招待者である韓国代表団と台湾技師会を紹介したが、台湾からの参加者は第 3 回 AAMLS 学会には参加してはいたのだが・・・この式には出席されず、残念と同時に腹立たしさを禁じえなかった。更に、この開会式は招待講演に引き続き行われたが、日程がタイトとはいえ、会場準備の僅か数分間に、招待講演に参加していた約 1,000 名のうち 8 割程度が会場を後にする姿が情けなく恥ずかしい思いであった。再三のアナウンスに背を向ける姿は、海外のお客人にはどのように映ったのか聞いてみたい。会場で式を待つ人たちも、退席を注意する態度を示して欲しいと感じたのは司会者だけであろうか。

【高田鉄也】

回想… “ケンサ EXPO'09” 実行委員 本間裕一

去る 7 月 30 日～8 月 2 日の 4 日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で、一般国民向けに公開展示「ケンサ EXPO'09」が開催されました。これは、第 58 回日本医学検査学会および第 3 回 AAMLS 学会と同時開催されました。

「ケンサ EXPO'09」は、検査の展示紹介や検査体験を通じて一般の方々に医学検査への理解を広めていただくことを目的とした本邦初の試みとなりました。また企画名は一般の方に「検査」をもっと身近に感じていただくために、あえて「ケンサ」と表記しました。

今から約 3 年前、第 58 回日本医学検査学会会長より本邦初の「ケンサ EXPO」を神奈川県で開催したいと聞かされた時、我々は希望と共に大変な不安に襲われました。神奈川県は現在では各都道府県が積極的に取り組んでいるエイズ予防啓発キャンペーンの先駆けとして STD 撲滅運動キャンペーンを立ち上げた実績と自信はありましたが、「ケンサ EXPO'09」はそれとは規模が違うと感じたからです。それは、一般入場者数 5 万人を目標とし、広大なコンベンション会場を貸しきる壮大な計画でした。しかも結果的には世界同時不況下での開催を余儀なくされたのです。しかし、マイナスをプラスに変えるのが先輩たちから受け継いだ「じんりんぎ」の底力です。神奈川県内の若手技師が、自薦他薦を問わず次々と集められました。ワーキングでは、皆の「ケンサ EXPO'09」にかける情熱と、多くのアイデアが提出され、その結果、展示ゾーン、ケンサ体験ゾーン、アクションステージ、ワークショップなどの枠組みが決定されました。

さて、EXPO 当日。ワーキングメンバーは、それぞれのゾーンやステージの機器の調達、展示パネルの企画、台本の作成等々 EXPO 前日まで細部にわたる調整に追われたのです。

さて、EXPO 当日。ワーキングメンバーのみで EXPO を運営できるはずもなく神奈川県下から多くの老若男女の臨床検査技師が実務委員として参加していただきました。ここで、うれしい誤算が生じます。本邦初の検査に特化した大掛かりな「ケンサ EXPO'09」がマスコミ各社に取り上げられたこともあり、沢山の予想を大幅に上回る、パニック的な人数の方々が EXPO に押し寄せました。開場 2 時間前からならぶ方々もおり、開場時には 300 人程の列ができました。そして開場と同時にケンサ体験ゾーンに走って行くこうとする方々もおり怪我の無いよう誘導するだけでも一苦労でした。各検査には最高 3 時間待ちの行列ができ、各ゾーンのリーダーを中心に実務委員の検査技師

が休む暇もなく働き続ける結果となったのです。ここで特記しておきたいことがあります。パニック的な働きにも関わらず実務委員が誰も文句を言わないのです。逆に「良い体験をした」「感動した」という言葉が多く聞かれました。皆、臨床検査に対する一般の方々の関心の高さに感動したのであり、また、若い技師がリーダーとなり EXPO を必死で運営している姿に感動していただけたのだと思います。我々は「臨床検査技師にはまだまだ力が眠っている」と改めて確信した次第です。

ここで「ケンサ EXPO'09」で実施された内容を簡単に説明します。

◆ 展示ゾーンでは、生まれる前から亡くなるまでの一生を 4 つのライフステージに区分し、各ステージに関わる検査を解説するパネルを作成し、検査の方法、健康を守るために検査を上手に活用する重要性を訴えました。

◆ ケンサ体験ゾーンでは、血液検査、血圧脈派、頸動脈エコー、体脂肪測定、心電図、骨密度など様々な検査を体験することができ、特に会場の一部を診療所として採血を行えるようにしました。また、一般の方々が普段は見ることのできない検査室の中を紹介し最先端の検査機器を展示しました。

◆ アクションステージでは、会場に特設ステージを開設し、手洗い講習、性感染症、糖尿病、寄生虫等、誰もが気軽に聞ける幅広いプログラムを企画しました。また、プログラムの合間には子供向けの「ケンサクイズ」など、子供から大人まで興味もてる内容で、ステージの進行から司会まですべて自分たちのアイデアが活かされました。

◆ ワークショップでは、子供ワークショップとして、心エコー体験、心電図体験、寄生虫顕微鏡体験、血球顕微鏡体験など普段経験のできない検査を子供達に体験してもらいました。子供達には実際に白衣を着てもらい、未来の臨床検査技師気分を味わってもらいました。また、妊婦さんの赤ちゃん 4 D エコー体験や A E D 体験なども実施しました。

今回の「ケンサ EXPO'09」の来場者延数は概算で 5 万 3 千名と当初の目標である 5 万人を達成することができました(開催前には 5 万人は夢の数字だったので)。さらに、ケンサ体験など、実際の検査場面が全国的にテレビで放映されたことで、広く一般の方々にケンサを身近に感じてもらい、医学検査への理解を広めていただく目標は、ある意味達成できたのではないかと思います。皆で知恵を絞りを、汗をかき、最後まであきらめない気持ちが不成功へと繋がったのだと思います。

最後に、米坂学会会長並びに諸先輩方が責任と引き換えに、私たちにチャレンジする自由を与えてくれた事に深く感謝い

たします。

また、世界的不況の中 EXPO'09 に協賛いただいた企業の方々、実務委員として参加いただいた神奈川県臨床検査技師の方々、そして、実行委員や実務委員を送り出した間の職場を支えていただいた方々、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関係団体の皆さんに感謝いたします。「ケンサ EXPO'09」は臨床検査技師全員が作り上げた最高の祭典であったと思います。



こどもワークショップは家族まるごと健康管理のベースになる!

ワークショップ リーダー - 新宮千恵美

子供向けのイベントではありませんが、EXPO で伝えたかったメッセージは全世代に広がった実感があります。これは実際にやってみてわかった事です。ワークショップに子供たちを連れてくるのは両親、祖父母など様々でした。参加する子供たちに白衣を着せることで、子供たちも引率者も一気にイベントに集中し盛り上がりを見せてくれました。これは、非常に授業に入りやすいことでした。

ワークショップに協力していただいた技師は全員が講師となります。「この空間では子供たちにどれだけインパクトを与える事が出来るか、笑わせるかに挑戦です。日常業務の頭は壊していただき、講師が一番楽しむ事です。」とお願いしました。いざ授業を始めると子供達と共に引率者にもメッセージを送ることが出来る気がつき、即座に子供たちが実際に行った測定結果や観察している検体をモニターに映し、体の働き、検査の重要性、ケンサを身近に活用して家族全体の健康管理に役立てて欲しいとのメッセージを伝えました。

各授業とも臨床検査技師の認知度は、殆どゼロ。EXPO を通してここからがスタートであると確認できた次第です。こどもワークショップは全世代にメッセージを送るツールとなります。EXPO から広がる可能性を形にして、国民の皆さまの健康に対する意識改革に務めるのも臨床検査技師の役目なのかもしれません。



The 3rd Congress of AAMLS in Yokohama

第 3 回アジア医学検査学会(The 3rd Congress of AAMLS)が、平成 21 年 7 月 30 日(木)~31 日(金)を会期とし、パシフィコ横浜を会場に開催された。アジア諸国から Korea, Philippine, Hong Kong, Singapore, Vietnam, Thailand, Indonesia, Malaysia, Taiwan が参加した。また、IFBLS から Gry Andersen, Lena Morgan 両氏を招いた。参加者は、招待者を含め 193 人(日本人 114 人)であった。

第 3 回アジア医学検査学会を終えて…

実行委員会 湯浅宗一

2005 年に第 2 回アジア医学検査学会(以下 AAMLS 学会)が中国上海で開催された。そこで開催された AAMLS 理事会において、日本が第 3 回 AAMLS 学会の開催国として立候補し、満場一致で承認された。以来、4 年が経過し、この度の開催となった。

実際の運営は、各理事への業務分担の説明が前日という間際にもかかわらず大きなトラブルもなく終了することが出来たことよりもありがたいことであった。なかでも、受け付け作業が最も煩雑で問題が生じるのではないかと心配されたが、大きなトラブルもなく終了することが出来た。担当理事の的確な行動と共に、英語に堪能な会員に実務委員(英語班)として加わっていただいたことが良い結果を生んだ。また、着物体験コーナーや抹茶サービスを担当された「着物班」の方、更には、情報化時代に相応しい写真や素早い DVD 作製などのサービスに携わったホームページ委員の方々のご苦労は測りきれないものがあった。改めてお礼申し上げたい。

◇ 学会特別企画

学会テーマは日本からアジアへ新しい技術、知識を発信することを目指して「Innovation of Biomedical Laboratory Science」とし、Innovation of Technology、Innovation of Management、Innovation of Information、Innovation of Strategy を、本テーマを支える 4 つの柱とした。このテーマに相応しい特別講演として東大特任教授の浅島誠先生と東芝病院研究部部長三代俊治先生にお願いした。浅島先生には「Organogenesis *in vitro* using undifferentiated cells and their molecular approaches in Vertebrate Development」と題して最新の再生医療の現実についてお話いただき、多岐にわたる ES 細胞の話聞くことができた。三代俊治先生には「A Cutting Edge of the DNA Chip Technology」と題して DNA チップについて講演をお願いし大変感銘を受けた。三代先生の発表主題である肝炎は広くアジアに広がっている現状から参加された各国にとっても大変興味を持っていただけた。

また、小崎会長は基調講演として日本における精度管理、データ共有化の現状を話された。精度管理の大切さ、データ共有化の必要性、加えて日本だけではなくアジアをも含めた精度管理調査の必要性に言及した。加盟国でも興味ある事業である模様で、フロアから多くの質問があった。この内容は必ずや次回の学会につながっていくものと確信する。

◇ シンポジウム I・II

シンポジウム I は、Innovation of technology とし、Korea, Malaysia, Singapore, Taiwan, Japan を代表するシンポジストが、最新の研究成果を発表した。シンポジウム II は、Innovation of Strategy である。Thailand, Philippine, Indonesia, Japan から各国の臨床検査技師会の戦略を話す場となったが、その中で、Thailand 会長の「innovation とは何か」から始まり、「我々は毎日が innovation でなくては」と結ばれた講演が印象的であった。彼女は来年度から AAMLS 理事会で新 AAMLS 会長となることが決定している。いずれの発表も興味のある内容で、質疑も活発で予定の時間を大幅にオーバーし、午後からの記念式典開始への影響も心配されたが、座長(小松事務局長)の采配でうまく切り抜けることができた。

◇ 一般講演。ポスターセッション

一般口演はレベルが高く、アジア各国の会長と日本臨床衛生検査技師会の理事に座長をお願いした。日本人の発表に対し、海外から興味深いとのコメントが多かったことは、喜ばしいことであった。朝一番の発表から各国の会長が参加され、質問をされるなど熱心に発表を聞かれていたのには大変驚かされた。

◇ ポスターセッション

50 演題ほどのポスターが並ぶラウンジは、自由ディスカッションの場となり、ポスターの前での記念撮影風景もみられた。

◇ 学生フォーラム

学生フォーラムも将来の臨床検査技師像について活発に意見が交わされた。IFBLS では教育に力を入れており、IFBLS の Past President である Lena Morgan 氏が進行役でセッションが進められた。アジア諸国の会長達は日本の学生がどのような教育を受けているかに興味を示していた。このセッションには、日臨技の歴代会長が聴講されていたことに感銘を受けた。

◇ 関連行事

学会期間中には学会長招宴、Welcome Party、Farewell Party が開催された。

特に Welcome Party は天候不順で雨も一時心配されたが、当日はクルージングに絶好の日となった。ベイブリッジをはじめ湾内から見る横浜の魅力を堪能するとともに、船内でのアトラクションでは TV でよく見かける有名なマジシャンの演技に拍手が止むことはなかった。また、Farewell Party にはジャズバンドの演奏に参加者一同が大いに盛り上がった。この Party の最後に次回開催国である Eddie Ang san (Singapore) 会長の挨拶があり、次回再会を約束し名残を惜しみながらの帰国となった。

また、最終日のみであるが、日本文化体験コーナーを設けた。ゆかたを着て写真撮影を行うコーナーと、抹茶サービスを行い、大変好評であった。担当者のお茶会用の着物と浴衣が同じ着物でも違うことを質問するなど、海外の方々の知識習得への積極性を改めて感じた。会場には開始予定時間前に大変の多くの方が見えたので予定より早く始めるほどの盛況であった。また、Farewell Party においても浴衣の着方を指導するなど大変好評であった。

◇ 終わりに

日臨技が国際学会を開催したのは 2 回目である。1 回目は第 18 回 IFBLS 学会(1996 年)を神戸で開催したものであるが当時を知る理事は少なく、このような状況で学会を開催するにあたり心配事はあったが、トラブルなく無事終了したことに、各理事の努力と応援して頂いた多くの会員の皆様に感謝申し上げます。今回の学会がこれからを担う若い検査技師の皆様が国際感覚を身につけるきっかけの一つになれば、実行委員の努力は報われるものと思われる。皆様、有難うございました。

第 3 回アジア医学検査学会を担当して…

事務局長 小松京子

当初、学会は第 58 回日本医学検査学会と同時開催の予定であったが、種々検討の結果、同時開催の 1 日 cross した開催となった。参加者は、招待者を含め 193 人(日本人 114 名)と一応の成果を見た。

国際学会とは、自国からの参加者がいなければ成り立たない学会であることは言うまでもない。はじめに、参加登録していただいた JAMT 会員の方々と、参加されずともご支援くださった会員の皆様の国際貢献に、実行委員一同から心より感謝申し上げる次第である。

国際学会は、海外の同業者が一同に会する場である。開催責任者は、場所の提供、連絡の仲介、宿泊情報と確保、安全性の確認、学術テーマやプログラムの構成などができる国の指導者でなければならないと考える。

日本での開催は、全ての条件が満たされているものの、物価の高いことが欠点であろう。AAMLS 加盟国には開発途上国も多く、自費で来日することは大変な負担である。事実、ベトナムの事務局長から、旅費と参加費全て合わせると 2 年分の給料となり、参加したくても行けないとのメールをいただいた。そのような地域から国際交流に参加できるのは、経済的に恵まれた一部の人間の特権のようである。

国際貢献のありかた。国際交流とはどうあるべきか。我々先進国の会員は何をすべきか。多くの課題は残されているが、学会に参加した者達は、それぞれに得たものはあると確信する。

国際交流により得るものは、学術的知識ばかりではないだろう。常日頃、国際学会の登録費は高いと思っていたが、海外参加者が負担する旅費のことや、他国での国際学会への参加も国際支援であることなど、先進国で働く者としては、違った角度からの見方も必要であることを再認識した。

今回、日本での学会は参加する価値があると政府と交渉し、その補助を獲得し、11 名で来日してくれたタイ国。代表団数名で来るのが精一杯のマレーシア、インドネシア。ベトナム会長は単身で来日し、全てのセッションに参加して活発に質問もし、早朝帰国したことは考えさせられることである。決して上手な英語ではなかったが、自国を代表してきたという気迫が感じられた。台湾と韓国からはアジア先進国として 37 名と 12 名という大所帯での参加協力をいただいた。

アトラクションを依頼した際に、学会の趣旨を理解していただき、出来る限りのことをしたいと、up grade のサービスをしてくれた忍者軍団(あの TV に出てくる有名なかたは、ボランティア出演でした!)や、デキシー(リードボーカルはボランティア出演!)の方々。多くの人々のサポートで成り立った学会であった。

将来のためのマニュアルを残すことが必要であると考えた。

会員の皆様には引き続きご協力を御願する次第である。

学会式典

30 日(木)午後 1 時 30 分から学会式典が挙行された。AAMLS 加盟国の国旗に加え、日本の伝統文化の一つである“琴”の演奏が各国参加者を迎えた。

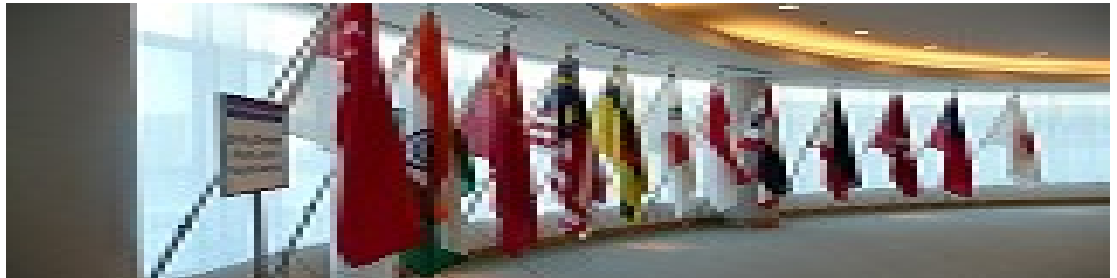
琴の演奏と自国の国旗を前に記念撮影する海外参加者が多く、日本とは異なり国旗に対する意識の違いが表れた瞬間であった。



開式の辞に続き、今回学会長を務めた小崎繁昭日臨技会長より式辞が述べられた。式辞のなかで「…日進月歩の医療界において、臨床検査を通じて安全で良質な医療を提供するために日ごろからの研鑽はもとより、臨床検査学の情報交換や新技術の共有は極めて重要であると同時に、学会を通して広がる人的な交流は、今後も参加各国技師会員が強い絆で結ばれていくものと信じてやみません。本学会が将来に向けてさらに発展し、アジアから臨床検査の新しい波紋を広げる機会になることを期待しています…」と述べ、今後のアジア諸国に対する日本の決意を“波紋”という言葉で締めくくった。

引き続き、主催者である AAMLS 会長の Eddie Ang san <Singapore> から挨拶があり、更に、IFBLS から Gry Andersen 会長が祝辞を述べた。

次いで、加盟国の紹介があり、和やかな雰囲気での閉式した。



AAMLS 理事会

AAMLS 理事会が平成 21 年 7 月 29 日(水)午後 3 時から午後 5 時まで横浜インタコンチネンタルホテルシルクの間で開催された。参加国はフィリピン、タイ、インドネシア、シンガポール、ベトナム、韓国、香港、台湾、日本の 9 カ国、ブルネイ、中国、インド 3 カ国が不参加であった。

理事会は会長であるシンガポールの Eddie Ang san 氏が議長として挨拶を行い、以下 6 題の議題 (①2005 年 9 月 25 日に上海エバーブライトコンベンションで開催された理事会議事録確認、②会計報告、③第 2 回 AAMLS 学会報告 ④第 13 回 AACLS 会議報告、⑤理事の選出、⑥その他) について審議された。そして会議の冒頭、IFBLS 前会長 LenaMorgan 氏 と現会長の Gry Andersen 氏の二人がオブザーバーとして参加することを承認された。議題①から④について確認と承認を行った。⑤の議題については会長 Rachana Santiyantont 氏(タイ)、副会長 Eddie Ang san 氏(シンガポール)、James Chang 氏(台湾)、会計 Woon Song thong 氏(マレーシア)が選出され、今後 4 年間担当することとなった。

その他の議題としてオブザーバー参加であった台湾が正式に AAMLS のメンバーとして承認され、台湾会長より謝辞が述べられた。また、第 4 回 AAMLS 学会をシンガポールで開催することを承認され、シンガポール会長より学会開催に対する抱負を述べ、全ての議事を時間内に終了した。

【湯浅宗一】

「天皇陛下御即位 20 年記念パネル」を展示・・・

今年は、天皇陛下が平成元年にご即位され満 20 年目を迎えられました。この御慶事を国民としてお祝い申し上げるため、両陛下 20 年の歩みを「記念パネル」として謹製されております。今回、第 3 回アジア医学検査学会および第 58 回医学検査学会開催にあたり、日本国民である技師会員に、また海外参加者の皆さんにもご覧いただきたく「記念パネル」のコーナーを設けました。

当初は、アジア諸国から参加される方々の歴史的認識を思い躊躇した部分もありましたが、現在の「開かれた皇室」をご覧いただきたいという考えで展示させていただきました。大々的に宣伝することを差し控えたこともあり、多くの参加者に見ていただくことは叶わなかったものの、ご覧になった皆さんには十分「意」は伝わったものと思われま。

学会に参加して・・・

今回の第 58 回医学検査学会に参加して、AAMLS 学会の同時開催を知り、受付へ行きました。しかし、そこで参加費を示されて発表を聞くことは出来ませんでした。両学会合わせて 1 日で 30,000 円は私には高すぎました。今後、海外との交流も増え、このような国際学会の機会も多くなると思いますので再考されることを希望するのは、地方から参加する者の勝手な言い分でしょうか？ 【A.K.】

皆様、有難うございました・・・

第 3 回 AAMLS 国際学会にお世話いただいた実行委員の皆様ありがとうございます。おかげ様で貴重な経験をさせていただきました。英語での発表はあまりよく分らないで終わりましたが、パーティは楽しかったです。外国の方とあのような場でコミュニケーションをとれたのは幸せでした。でも参加者が少なくもったいない感じがしました。せつかくの懇親会だったので第 58 回学会と一緒に出来たら良いのと思いました。次はシンガポールだそうですね、おもいきって出かけてみようと思っています。 【Y.K.】

久しぶりの学会参加・・・

横浜への学会参加は確か 2 回目になるだろうか？ 遠い昔で覚えちゃないが・・・チト前ならラララ～港のヨウコ～横浜 横須賀 ♪～

道東の涼しい（寒い）地から、暑い横浜（関東エリア）に行くには、覚悟が必要だ！ 10 度以上の気温差に、耐えられる、身体年齢であろうか？

だがしかし、行かねばならぬ。今回は発表だ！ 数多くの演題から、何を拝聴しようかしらと時間との調整でプライオリティーを決定。

さてと・・・と、ウロウロしている間に、ランチョン整理券は完売(?)

抄録片手に、入場すると、なんとマニアックな、発表だろう、なんときめ細かなデータ集積だろうと感心しながらも、シニア諸氏の「質問でない質問」に、いささか閉口！

後輩の発表を叱咤激励する気持ちはわからないでもないが・・・貴方の知識を披露する場では・・・？ と苦笑い。後日ご指導しても・・・と思ったりして！

現在 我々臨床検査技師も、色々な資格試験、認定試験のもとに、より専門性を持ち、より細分化され、他の専門学会での発表も珍しくない。そこでこの専門家は一般技師の知識の比で、ないのだろう。しかし我々の職場は（人生いろいろ。職場もいろいろ）どこまでもアカデミックを追求する専門性と、general との狭間で、本家本元の当学会の行く末はいかに！ 閑散とした開会式を垣間見フト思った数日であった。

学会の実行委員のアロハシャツはサミットのようで、目立ち、目印となり斬新で“good idea”ご苦労様でした。 【釧路赤十字 HP Y.Takabuchi】

学会に参加した学生さんから・・・

拝啓 晩夏の候 先生におかれましては益々清祥のこととお慶び申し上げます。

この度はアジア医学検査学会及び日本医学検査学会に参加する機会をいただき誠にありがとうございます。

数々の講演を通して、医学は日々進歩していると改めて実感させられました。また、その進歩においては臨床検査の貢献が大いに関わっていることもよく理解できました。

特に、アジア医学検査学会の学生フォーラムにおいては、アジア諸国の学生の方々は自らの意志をしっかり持ち前向きな姿勢に圧倒されました。私たち日本の学生も更なる積極性を持って勉学を深めていかなければならないと痛感しました。

今回の参加では、勉強不足のために解らない点もありましたが限られた時間の中でも学会という場に身を置くことにより、より多くのものを得ることが出来ました。今後の臨床検査を担う私たちにとって、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この貴重な経験を活かし、将来は世界を視野に入れた臨床検査技師として医療に貢献していきたいと考えています。書面では失礼と存じますが、学生を代表してお礼もうしあげます。

平成二十一年八月四日

東洋公衆衛生学院臨床検査技術学科二年 山村諤子

敬具

「康子 19 歳 戦禍の日記」

第 58 回学会に思う・・・

栗屋康子 19 歳、昭和 20 年 8 月広島で被爆した母親を口移しで人工呼吸を施すなどの懸命な看護を続けた。やがて、彼女は二次被爆し自らの命を散らすこととなる。現御茶ノ水女子大の前身である東京女高師附属専攻科の康子は、当時、勤労働員されていたが戦局悪化に伴い新潟県へ疎開していたが、家族の悲報を受けることになる。父は広島市長であった・・・これは、門田隆将作「康子 19 歳戦禍の日記」(文芸春秋社)である。この献身さは家族のためなのか、彼女自身がクリスマスチャンであったためなのかは、今や彼女の「心」に秘められたものである・・・

さて、学会初日の 7 月 31 日午後 5 時の出来事である。学会会場のパシフィコ横浜の「死角」ともいえる石の階段で男性が倒れた。3 階からその一部始終を目にしたスタッフ(日臨技役員)が AED を手にして駆けつけた。倒れた男性は、心臓障害ではないようであり、意識もあり腕と足のシビレを訴えていた。駆けつけるには数分間が必要であったが、問題は、その現場に学会へ参加していた検査技師の姿があったことだ。男性の横に立つ検査技師の姿と、それをすぐ上の階段で眺める検査技師の姿は医学検査学会にはそぐわないものであった。脈を確かめる・・・声をかける・・・意識を確認する・・・周囲の者に助けを求める・・・などの行為は「助ける」第一歩で、一刻の猶予もないはずである。倒れた男性の「学会へ来た」という言葉から、“けんさ EXOP '09”へ参加するためであったのでは。各都道府県技師会では公益事業として「AED 実技講習会」を実施している。公益事業とはいえ、当然、医療人としての研修の場でもある。

長年にわたり日臨技は「医療技術は国家資格のある者の手で」と訴えてきたが、ここ数年、医療行政は救急医療や介護の域において一般国民や家族でも医療行為が行えるように規制緩和を進めている。医師、看護師を中心とした医療職種不足と説明しているが、資質の低下も大きな要因と考えるべきではなかろうか。意識は「ある」では何の意味も無い。「意識の覚醒」が重要である。

【高田鉄也】

【 Explanation or Guidance 】 説明・指導

ひとくち英会話

- ◆ How much will the test cost?
→ その検査は、費用はどのくらいかかりますか
- ◆ I think it will cost around 5,000 Yen.
→ だいたい 5,000 円くらいだと思います。
- ◆ Please come back in a week.
→ 1 週間後にまたおいでください。
- ◆ How long will the test take?
→ その検査はどのくらい時間がかかりますか
- ◆ The blood test will take about 30 minutes.
→ 血液検査は 30 分くらいかかります。
- ◆ When the tests are finished, please come back to the outpatient clinic.
→ 検査が終了したら、外来に戻ってきてください。
- ◆ Do you feel your heart beating fast or irregularly?
→ 脈が速くなったり、不整脈が出たりすることはありますか？
- ◆ Have you ever received any surgery or blood transfusion?
→ 今まで手術を受けたり、輸血を受けたりしたことはありますか？
- ◆ How is your appetite?
→ 食欲はいかがですか？
- ◆ Don't eat or drink anything for 8 hours before the test.
→ 検査前 8 時間は何も口にしないで下さい。
- ◆ You need to take a laxative the night before the test.
→ 検査前夜に下剤を服用してください。
- ◆ You'd better not to eat or drink anything for an hour.
→ 1 時間は飲食しないでください。
- ◆ Please drink plenty of fluids.
→ 水分を沢山とってくださいね。
- ◆ We think that you need this test for an accurate diagnosis.
→ これは、正確な診断を行うために必要な検査です。
- ◆ We need your consent to perform this test for you.
→ 検査を行うためには同意が必要です。
- ◆ Please read this form and give your signature here.
→ この同意書をよく読んでここにサインしてください。

◆ 検査室でも患者さんに指導や説明が必要なときがありますね。こんなフレーズも有用かもしれません。【小松京子】

英語での communication について

第 3 回 AAMLS 学会に思う・・・

日本の英語教育は、中・高校時代の 6 年間で主体となっており、所謂受験英語の域を脱しない。最近では、それ以前の早期教育が増えているが、英会話となると話は別のような。

何故、近年英会話をはじめの人が増えているのか？英会話をはじめの人の動機は前向きなのに比べ、英会話が必要だという人は「話」ばかりが大げさで、要らない人には「要らないもの」にすぎないのであろう。

しかし、現在のビジネス社会や情報社会にとっては「英語は標準語」になっている。

一方、技術畑に生きる人には、それほど必要と思えないという人も多く「英会話」をある種の盾と感じているのも事実のようであるが、今や、ビジネス社会と同じく学会の標準語も英語になっているのも事実である。

外国人＝英会話という発想があるが、AAMLS 加盟国は、英語を母国語とはしていない国が殆どである。流暢に英語を話す IFBLS 会長・前会長も母国語は英語ではない。言語が異なる集団のコミュニケーションの手段は通常英語であるが、今回は殆ど全員が英語は second language であったわけである。

アジア各国の方々は、伝えようとする意欲が強く、英語が流暢でなくても話しかけてくる。日本人は、自信のあるかた以外は、多少話せるかたでも消極的である。謙虚であることが美德とされている国民性なのかもしれない。しかし、皆さん！学会場でさほど上手でない英語で一生懸命話かけてくる同業者に、悪感情は持たないですよ？

英語発表の際には「判りやすく」「が大切である」と考える。英語の力量の差はあっても所詮は母国語ではないので、外国人にとっては早すぎると聞きにくい。聴講者全員が英語ができるとは限らないことも考え合わせると、声は大きく、話しかたはややゆっくり、高度な文法を用いた文章は使わない、等の気使いが必要であらう。聞けなくても読める人は多い。スライドだけでも伝わるように構成すると良い。文章だけのスライドは大きな字で。図や写真を活用する。原稿を読む場合にはマイクの使い方注意し、顔はなるべく上げて欲しい。今回学会で口演された皆様にエールを送りたい。海外からも、英語での発表に対し大変好意的なメールが届いていることをお伝えする。今後も皆様と共に語学も含め、多くのことを学んでいきたいと考えた次第である。 【小松京子】

好評連載中 …検査のはなし…

<中日新聞・東京新聞 毎週金曜日朝刊>

◇ 第 36 回 7 月 17 日 <めまい (上)> 脳は？聴力は？原因を探る

目の前がぐるぐる回る、頭がフワッとする、立ちくらみがするなど、めまいにはいろいろな症状があります。突然襲ってくる事が多く、不安になる人も少なくありません。

めまいの原因には、主に ▶平衡感覚の異常 ▶脳の障害 ▶生活習慣の乱れ ▶過度のストレスや心の病などがあります。

病院の耳鼻科を受診すると「いつ起こったか」「どのようなめまいか」「どのくらい続いたのか」などを尋ねられることと思います。次に、原因を推定し、検査を選択することになります。

めまいの原因の多くは、内耳やその神経由来のものが多のですが、一部には大脳や小脳や頸椎が原因で起こるめまいもあり、きちんと原因を見つけるための検査が必要となるのです。

問診の後は、採血、耳のエックス線撮影、聴力検査、重心動揺検査などが行なわれます。多くの場合、最初に行われるのが聴力検査で、メニエール病など難聴を伴う疾患を調べる目的です。

メニエール病は難聴、耳鳴り、めまいが反復して現れる病気です。特に低い音を聞き取りにくい低音障害型難聴が特徴です。その他の検査についても次回後紹介していきます。

◇ 第 37 回 7 月 24 日 <めまい (中)> 目の揺れや動きを調べる

先週に続き、めまいの原因を確かめる検査について紹介します。

「重心動揺検査」は計器の上に足をそろえて立ってもらい、目を開けて一分間、目を閉じて一分間、重心の動きを電氣的に記録します。そのパターンによって耳の鳴りの異常から起こる末梢性めまいか、脳、脳神経から起こる中枢性めまいかを推測していきます。治療によってめまいやふらつきがどの程度改善されたか調べる際にも役立ちます。

目の動きを電氣的に記録するのは「眼振運動検査」。眼の周りに電極を貼って大きな箱の中をのぞいてもらい、赤い点が左右上下に動くのを目で追ってもらいます。通常、末梢性めまいは、注視をすると眼振がとまることが多いのですが、特定位置の注視で眼振が起こることもあります。

左右に動く白い丸を目でしっかりと追ってもらう「指標追跡検査」もあります。目の動きによって、曲線が滑らかだったり、ギザギザになったりします。ギザギザの波形の場合は、小脳や中枢疾患を疑います。同様に左右に赤い点が飛ぶのを見もらう検査もあります。

いずれも目の揺れだけでなく、眼球の動きがスムーズかどうかも大切です。

◇ 第 38 回 7 月 31 日 <めまい (下)> 誘発し異常を発見

めまいの原因を調べるために、めまいを誘発させる検査もあります。

「視運動性眼振検査」は、電車の窓から外を見るような感覚で、目の前を次々に通過する縦のしま模様を見つめてもらい、目の揺れの大きさや回数、速度を調べます。自分が回っているような錯覚を覚える検査です。しま模様を追い掛ける際のゆっくりした動き、目が元の位置に戻る際の速い動きを調べ、その左右差などを確認します。脳幹障害、小脳障害、中枢障害などがある場合は、目の動きの間隔や速度に異常が現れます。

耳の中に冷水や冷たい空気を入れて内耳を刺激するカロリックテスト（温度刺激検査）という検査もあります。外耳道が冷えて三半規管の機能が低下すると、三半規管が正常な場合にはめまいが起こります。めまいの程度が小さいか、まったくない場合は、機能に異常があるわけです。一口にめまいといっても、その症状や原因はさまざまです。脳からのめまいが疑われる場合は、コンピューター断層撮影(CT)や磁気共鳴画像装置(MRI)を使うこともあります。突然やって来るめまいには、早期治療が有効なことが多いので、不安を感じたら早めに受診し検査することをお勧めします。

国際科学五輪で「金」10 個…

1959 年にルーマニアで、科学的才能を見出し、国際交流を図ることを目的に「数学五輪」がはじまって以来、日本の高校生による金・銀・銅の獲得は目覚ましいが、今年度は今のところ昨年の金 4 個から 10 個に倍増した。日本では、若者の理数離れや学力低下が問題視されていたが、金 10 個は朗報といえる。要因は、今年の問題は若干易しく日本が苦手とする幾何学が少なかったとも言えるが、国内予選の参加者が平成 17 年の 2,881 人から平成 21 年は 6,968 人と急増したことにあるようだ。

しかし、獲得数は中国に次いで 2 位に止まっている。昨年のノーベル賞の受賞などにより理数に興味を持つ者が増えたことは良いことだが、一芸では日本の教育とは合っていないのでは？

興味のあることは、この代表を送り込む学校は受験教育とは異なり自由学習を取り入れている学校が多いという。今までの教育は理系と文系に色分けされた中での学習であり、科学の進歩に取り残される者が多く「理数離れ現象」を招いているという。あるいは、社会に出てからの見方も問題であり「理数系は応用力に欠ける」「融通性がない」などと言われることだ。

歴史を見ると理系と文系は必ずしも区別はない。理数に優れた文学者が多く、ギリシャなどの哲学者を見とらなすける。国内でも同様であり、自然科学への憧憬が深い文学ほど虜にさせられるようだ。

理数に強く、いくら技術に優れていても、読者を納得させる論文を書く者が少ないことは問題である。

学会での発表を見ても、せっかくのデータが活かされていない、あるいはそれを伝える術に欠けているなどが最近目立つようだと感じる。

我々の狭い世界でも同様であり、それを打破し、総合的教育に主眼をおく総合監理検査技師に期待してみたい。総合教育の重要性がそこにある。

話題の窓

公共系カードのポイント制は…

現代に生きる日本人にとって珍しくないことの一つは、財布には必ずといってよいほど数枚のカードが入っている。何枚カードを持っているかで「私は…」などと思いをしている人も多い。現在、日本ではクレジットカードで 3 億枚、電子マネーの IC カードも 1 億枚という。それにポイントカードを加えると…気が遠くなるような枚数になる。その中での多様性カードはおなじみの「Suica」などの交通系のカードである。このような流れでは、技術的には簡単に 1 本化出来るのに、それをしないのが日本人であり企業でもある。企業にとっては負債の何ものでもないような気がするが、これらポイントカードの有効利用により「1 か月に〇〇円の節約になります」をうたい文句にコンサルタントも現れるしまつだ。

東京大学の坂村健教授は言う。「運転免許証、保険証、印鑑登録証などの公共性カードも結構な枚数になっている。住民基本台帳カードへの 1 本化はプライバシー問題が全面で論議されたが、日本式の組織間の縄張り争いもあったと聞く。民間のようにカード乱立で 1 本化が難しいならポイント性導入もあり。国民にとっては縄張り争いよりサービス競争が嬉しいのでは…」

これをマニフェストに加える党がないのは、メリットなのか？ポイントなのか…？

臨床検査部門の 監理運営

第 4 回 経営資源 “ヒト” II



人事

個人の能力と仕事の配分

どの部下にどの仕事を配分し、行わせるかは、組織全体の成果を左右するため、管理者にとって非常に重要な仕事である。仕事の配分を行う際のポイントをいくつか述べる。

まず第一に、部下の能力レベルについて、常に最新の情報を把握しておくことである。そのためには、日頃から部下の仕事ぶりをきちんと評価しておくことが必要である。

第二に、事前に配分する仕事の難易度、重要性、緊急度などをチェックしておくことである。そのレベルによって、配分の仕方は大きく影響を受ける。

第三に、仕事の配分に際しての基準を何に置くかである。どの部下にどの仕事を指示するかを考える際、管理者としては、その基準を何に置くかによって葛藤を経験することになる。仕事そのものの成功を考えることは管理者として当然である。しかし、それだけに力点を置くことと安全主義に走り、ベテランの経験豊富な部下に、彼にとっては安易な仕事を配分することになりかねない。なぜならば管理者にとってはそのやり方が一番安心できるからである。反面、その簡単な仕事を配分された部下は、仕事に対する充実感を感じることができない。仕事を通じての成長を感じることができない状態に置かれた部下は、仕事に対するモラルを著しく低下させるであろう。つまり、管理者は満足できても、部下は不満足という状態が生じる。

一方、管理者が部下の成長の側面に力点を置きすぎると、部下の現在の能力より、非常に高いレベルの仕事を与えて、部下の努力を期待することになる。この場合、うまくいけば部下も成長し、仕事の成果も上がるので万々歳であるが、一步誤ると、とんでもない大失敗を引き起こす危険性を含んでいる。現実的な仕事の与え方とは、この両者のバランスをとったところにある、つまり、部下の現在の能力よりやや高い能力を必要とする仕事を配分し、その仕事を通して、部下が成長できる環境を作ると同時に、仮に部下の手に余ったときは、速やかにその場に対応できる体制を整えておくことである。それは必ずしも管理者自らがフォローすることを意味するのではなく、先輩にフォローさせることでもよい。要は、一義的には、期待する仕事の成果が成し遂げることができると予測される状況のもとで、部下の育成を考えることである。先に自己啓発のところで OJT に触れたが、部下に仕事を配分することは、まさに絶好の OJT の機会といえる。この場合、管理者は少々リスクは自らが負う度量の広さが必要である。管理者が失敗をおそれるならば、部下の仕事を通じての成長は期待できず、その管理者は OJT を効果的に行うことはできない。OJT の意図をもって部下に仕事を配分するときには、事前に十分に部下に対してその意図を説明しておくことが必要である。

このときに、まず部下に対して業務遂行上必要とされる能力と、現在の部下がもっている能力とのギャップを明らかにする。次に、そのギャップを埋めるために、どのような能力開発が必要かを説明し、実行させることにより、絶好の能力開発の機会を部下に与えることになる。そうでないと、部下はこんな困難な仕事はできないと簡単に投げ出してしまっておそれがある。

部下は上司の意図を十分に理解することにより、成長の機会を与えてくれた上司に感謝し、困難な仕事にチャレンジする意欲を待ち、さらなる能力の向上に努めることになる。また、部下にとって、管理者が自分を信頼してくれて、成長の機会を与えてくれたという思いは、この管理者の期待に応えなくては、という気持ちを引き起こすことにもなり、さらなるチャレンジ意欲を生み出すことに一もなる。

モチベーション

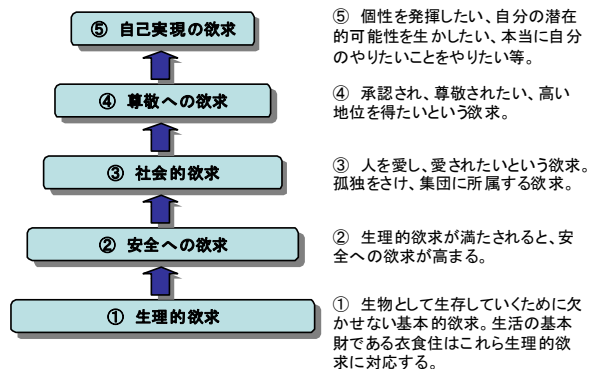
ローラー(Lawler, E.E.)は「成果 = f (能力 × モチベーション)」であると説明した。モチベーションとは個人の「やる気」であり、意欲的な行動を引き起こす要因である。したがって、どれほど能力のある人材であっても、やる気がなければ良い成果は期待できないし、逆に、能力はそれほど高くなくとも強く動機づけられていれば、予想以上の業績をあげるかもしれない。この動機づけの強さには、単に個人が集団や組織にとどまる程度のものから、言われたこと、役割遂行の範囲を超えて、自発的な行動を引き起こすほどのものまで考えられる。もちろん、リーダーや上司にとっては、この自発的な意欲を引き出すことが大きな課題となる。

さて、モチベーション理論には、内容理論と過程理論がある。前者は、マレーの欲求理論、ハーツバーグ(Herzberg, F.)の 2 要因理論やマズロー(Maslow, A.H.)の欲求階層説に代表され、人間は基本的に自らの欲求を充足するために行動するという仮定に基づき、欲求そのものに焦点を当てている。この理論は、行動を引き起こす個人的諸要因を説明してはいるが、ある状況で、なぜ特定の行動をとるのかについては明らかにされていない。一方、欲求そのものは所与として、なぜ欲求が生まれ、どのようなプロセスで行動するのかを説明するのがモチベーションの過程理論であり、ヴルーム(Vroom, V.H.)、ポーター(Porter, L.W.)、ローラーによる期待理論が代表的である。

期待理論の基本的な枠組みは、「モチベーション = 期待 × 誘意性」という公式で示されている。期待というのは文字どおり、頑張れば報われるだろう、というように、努力が個人的報酬ないしインセンティブにつながるであろうという期待であり、誘意性というのは、行動の結果に対して与える主観的価値ないし魅力の度合いを意味している。したがって、期待が誘意性のいずれかがゼロである場合には、モチベーションもゼロとなる。

この理論に従うと、上司は部下が高い誘意性を感じている報酬(賃金、昇進、休暇、友人、自己実現など)を分析し、それらを部下の役割遂行能力に結びつけることによって、やる気を起こさせるのである。この動機づけに失敗すると、単に部下がやる気を失うだけでなく、将来組織を去っていくことにもなりかねない。

マズローの「欲求5段階説」



以下、次号・・・

【町田幸雄】

全国で共有できる基準範囲の設定は 我々臨床検査関係者の手で成し遂げよう！



あなたの参加が全国で共有できる基準範囲設定を具現化させる・・・

◇ 3600 を超えた日臨技精度管理調査参加施設

日臨技精度管理調査の施設数は 3600 数余になる。これは検体検査管理加算による要因が大きいと思われるが、全国で展開される“標準化事業のうねり”も一要因であり、トレーサブルな測定値を確保したいとする会員の想いでもある。

◇ 基幹施設ネットワークの構築と本格稼働

平成 19 年度より日臨技主導による臨床検査データ標準化を実現するために基幹施設ネットワークを構築し、全国的な標準化を実現するための事業を始めた。

日臨技では全国の臨床検査データ信頼性保証の達成を目指し、正確さを地域の施設まで伝達・指導できるトレーサビリティ連鎖システムを構築してきた。

各都道府県技師会からは本事業に対する理解と協力を得、地域における標準化活動の中核となる 172 基幹施設は認証標準物質による正確の確認および精度管理物質による長期精密さの維持を確保してきた。過去 2 年間の活動により基幹施設の測定値はトレーサブルが確保されていることが確認された。今年はこの事業の 3 年目であり、トレーサブルな測定値が確保された基幹施設としての集大成の年といえる。いよいよ基幹施設ネットワークにより地域の施設へ正確さが伝達され標準化を目指す、いわゆるパッチワーク方式の本格的な活動となる。

◇ 共有できる基準範囲が希求されている

臨床検査値の標準化は日本臨床検査標準化協議会、日本臨床衛生検査技師会の活動により進みつつあるが、基準範囲の共有化は未だ不十分な状況である。このことは施設毎に適切な方法で基準範囲を設定することの困難さを表しており、基準範囲の多施設共同設定と共有が強く求められている。そこで、日臨技では本邦において広く共有できる全国規模(10000 人程度)の基準範囲を設定し、臨床現場で活用するため、昨年より企画立案し準備してきた。

◇ 正確さが担保された基幹施設による基準範囲の設定の意義

臨床への信頼性の保証されたデータの提供と合わせて、正確さが確保された全国の基幹施設による基準範囲の設定は、まさしく標準化事業の目的とするところであります。検査データの標準化と基準範囲設定の両者が実現することにより臨床検査データが“何時でも、何処でも、同じものさし”で疾病の診断や疾病予防・国民健康増進に活用され、科学的根拠に基づいたデータベースが構築され、医療に貢献することとなると確信する。

◇ あなたの参加が全国で共有できる基準範囲設定を具現化させる

この事業の実現には都道府県技師会および会員のご協力が欠かせないものと考えているが、各基幹施設で多数のボランティアを確保することは大変困難なことで予想される。

そのためもあり、各都道府県技師会並びに会員諸氏には、趣旨をご理解いただき健常者ボランティアに参加頂きたくお願い申し上げます。正確さが確保された施設による基準範囲の設定の報告はこれまでありません。それだけにエビデンスに基づいた基準範囲を実現させる意義が非常に高いものと信じております。

会員の結束力により、日臨技発の基準範囲の設定を実現させて頂きたいと願っております。

【精度保障事業部 田中久晴】

第 59 回医学検査学会 「和」をテーマに和歌山県技師会が担当！

平成 22 年 5 月 22 日(土)、23(日)の 2 日間、神戸国際会議場、神戸国際展示場において第 59 回日本医学検査学会を担当させていただくことになりました。

第 58 回日本医学検査学会の懇親会では第 58 回学会実行委員会のみなさまのご厚意により、和歌山県・奈良県・三重県にまたがる世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を詣でる際に着用された着物で参加させて頂きました。

学会のメインテーマは「和」、サブテーマを「Innovation and Future」とさせて頂きました。日本には古くから「和を以て貴しとなす」、「和して同せず」、「和洋折衷」、「和衷共同」の「和」を含むことわざや熟語の教えが多くあり、古くて新しい「和」、そして和歌山の「和」をメインテーマとしました。臨床検査の「わ」一和・輪・環・話一を過去から現在へ、さらに未来へと繋いでいければと考えています。

特別講演Ⅰとして、理化学研究所神戸研究所発生・再生科学総合研究センターの若山照彦先生に「マンモスが復活する日」、特別講演Ⅱとしてタレントの山本シュウ氏に「レモンさんのビタミントーク～We are シンセキ！僕らは同じ血が流れてるんやで～」をご講演いただく予定となっております。

新しい企画も目白押しです。タイ国と共同で行う国際フォーラム、和臨技若手技師が企画するテーブルディスカッションとシンポジウム、各分野の基礎を学べる教育セッション、医学検査学会では初めての企画の一般市民参加型『HIV 啓発チャリティコンサート』ではアッ！！と驚くビックなアーティストの参加も予定しています。そのほか、VCT（無料 HIV 抗体検査と＋カウンセリング）も企画しております。また、学会前日には和臨技主催の『行列ができるスキルアップ研修』を開催します。こちらは事前申し込み制とさせて頂きまますのでご了承ください。

一般演題の受付も間もなく開始します。なお、最新情報については学会ホームページをご覧ください。第 59 回日本医学検査学会が開催される兵庫県神戸市は平成 7 年 1 月 17 日の未明に発生した阪神・淡路大震災という未曾有の大災害から大きな人の（環・輪・和）、心の（環・輪・話・和）によって今日の復興に至っています。「わ」を身近に感じるこの神戸の地よりいろいろな「和」を皆様にお届けできればと思います。みなさんのお越しを和臨技会員一同、神戸でお待ちしております。

【第 59 回日本医学検査学会長 田中久晴】



平成 22 年度 診療報酬改定に向けて - その 2 -

■はじめに

平成 22 年度診療報酬改訂に向けて各関連団体等が活発な動きを見せている。日本医師会は、厚労省へ 7 月初旬に大幅なプラス改訂や患者負担の軽減措置のための財源確保を要望した。

また厚生労働省は、7 月 15 日の社会保険審議会医療部会で、救急や産科などの病院勤務医の負担軽減のため、病院への重点配分を焦点とした診療報酬引き上げの公算改訂へ議論をスタートさせている。

こうした中で、当診療報酬対策委員会も平成 22 年度の改訂に向けた厚生労働省への要望書をアンケート集約資料等から作成し、8 月中に提出する予定とした。

■臨床検査の診療報酬点数改訂に関する要望書（要点）

要望書の詳細記述は紙面の都合もあり全文披露は出来ないが各要望項目について、概略・現状と解釈・対象疾患・代替区分・改訂の必要性と根拠・改正案などを記載した要望書とした。

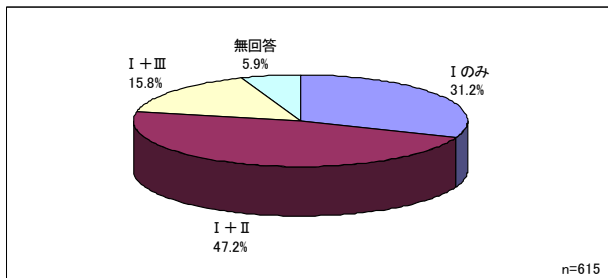
1. 検体検査管理加算(D026 注 3)

＜現行＞→＜改正案＞

I	40 点	→	100 点
II	100 点	→	200 点
III	300 点	→	300 点

検体検査の管理や精度管理等の重要な業務に携わる臨床検査技師についても、診療報酬に反映されることが重要であることを強調した。また、加算 II の施設基準に「臨床検査技師」存在の重要性を付加し算定要件を厳しいものとした。

資料 1：検体検査管理加算 I II III の算定状況(アンケート集計の一部)



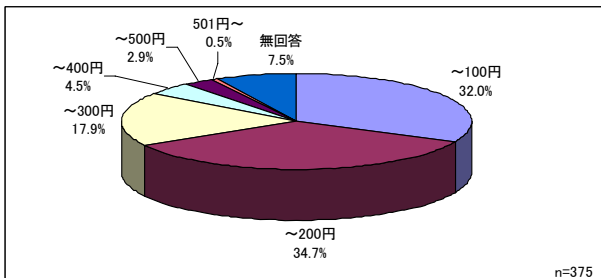
2. 血液採取料(D400-1)

＜現行＞→＜改正案＞

静脈	11 点	→	20 点
----	------	---	------

血液採取料は手技的要素が高いが、血液採取に対する医療安全、感染防止対策を加味した経費と採取材料費等を付加した。

資料 2：血液採取のトータルコスト（アンケート集計の一部）



3. 生理検査病棟加算（新設）

＜現行＞→＜改正案＞

新設	0 点	→	40 点
----	-----	---	------

各種生理検査の検査室検査と病棟出張検査との平均所要時間差から、厚労省「賃金構造基本統計調査」による平均人件費を算出し、要望根拠とした。

資料 3：下図はアンケート集計を更に集約した表

	病棟出張 平均時間 (回答率合計)	検査室での 平均時間 (回答率合計)	差 (平均)	人件費 (円)
心電図	15~20 分 (82.4%)	3~5 分 (83.9%)	12~15 分 (13.5 分)	421
脳波	60~90 分 (43.5%)	45~60 分 (61.1%)	15~30 分 (22.5 分)	702
心エコー	30~45 分 (54.2%)	20~30 分 (67.0%)	10~15 分 (12.5%)	390
心以外の エコー	30~45 分 (53.0%)	20~30 分 (58.8%)	10~15 分 (12.5%)	390

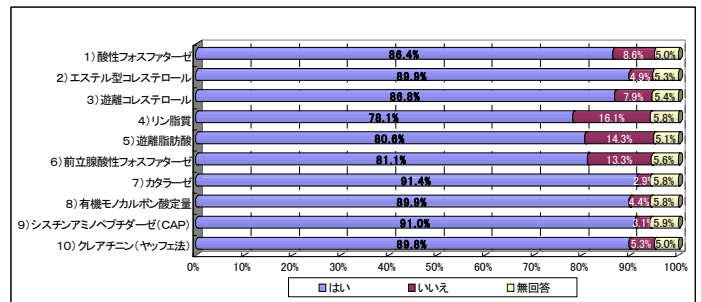
4. 診療報酬収載から除外可能な検体検査項目（削除）

削除

酸性fosファターゼ	D007-1	11 点
エステル型コレステロール	D007-1	11 点
遊離コレステロール	D007-1	11 点
リン脂質	D007-2	15 点
遊離脂肪酸	D007-3	16 点
前立腺酸性fosファターゼ	D007-4	17 点
カタラーゼ	D007-15	60 点
有機モノカルボン酸定量	D007-12	48 点
シスチンアミノペプチターゼ	D007-20	100 点
クレアチニン(ヤッフエ法)	D007-1	11 点

アンケート調査でこれら 10 項目は、臨床的同意義で精度の高い検査法に代替可能・日常的な測定が無い・疾患特異性に乏しいなどの理由から除外すべきとの意見も寄せられている。

資料 4：除外可能な検体検査項目(アンケート集計の一部から)



■おわりに

今回は上記 4 項目を焦点としましたが、臨床検査全般にわたるプラス改訂が必要なことは論ずるまでもありません。昭和 50 年代後半に始まった検査点数包括や総医療費抑制等々が進み、今日では医療の崩壊寸前を危惧する感がある。

政府は来年度の予算編成で、社会保障費抑制方針を撤回し高齢化に伴う自然増を容認するなど、少しながら明るい兆しも見えています。全体での改訂率は 10 年ぶりのプラス改定となる公算が大きいとされている (2009.07.16: 共同通信)。

こうした中での期待感はありますが、臨床検査に関する事は我々自信の手で、基礎検討資料や改訂根拠を明示していく姿勢が重要です。今回の要望書作成には、アンケートに御協力頂いた会員の皆様の御意見等が力となりました。診療報酬点数は、社会経済変動や医療政策などにより 2 年毎に変化がありますが、これ等の対応に「臨床検査」の診療報酬対策委員会の継続は必須です。今後とも協力方宜しくお願い致します。

【椎津 稔】

日臨技認定センター お知らせコーナー！

認定指定講習会、認定試験など認定に関するお知らせコーナーです。詳細はホームページをご覧ください。

◇ 認定一般検査技師認定資格更新 指定講習会

- 1) 主 催：東北地区臨床検査技師会
日 時：平成 21 年 9 月 26 日(土)・27 日(日)
会 場：第 1 日目…福島ビューホテル
第 2 日目…福島県立医科大学
- 2) 主 催：長野県臨床検査技師会
日 時：平成 21 年 10 月 25 日(日)
会 場：松本歯科大学
- 3) 主 催：愛知県臨床検査技師会
日 時：平成 21 年 11 月 1 日(日)
会 場：藤田保健衛生大学医療科学部
- 4) 主 催：中国地区臨床検査技師会
日 時：平成 21 年 11 月 21 日(土)・22 日(日)
会 場：鳥取大学医学部医学科講義室・実習室

◇ 認定心電検査技師認定資格更新 指定講習会

- 1) 主 催：東京都臨床検査技師会
日 時：平成 21 年 10 月 3 日(土)
会 場：東京通信病院管理棟 8 階大講堂

◆ 認定心電検査技師資格更新のための講習会は、各地区で開催される地区学会(北海道、近畿を除く)に、日本心電学会が企画する資格更新のための講習会(ランチョンセミナー)で開催いたします。資格更新者のみならず、受験を希望される方、心電図を勉強したい方を対象に開催いたしますので是非ご参加ください。

◆ 「認定心電技師のための心電図の読み方」が発売中です。この本は心電図を検査する検査技師に必要な事柄が網羅されているとともに、認定心電検査技師受験のためのテキストでもあります。お買い求めはお早く！

◆ 認定資格更新のための指定研修会(心電・一般)

各都道府県技師会または地区技師会主催の研修会について、主催技師会からの事前申請により資格更新のための研修会として承認することとなりました。詳しくは研修会主催技師会へお問い合わせください。

◆ 講習会は、更新対象者だけが対象ではありません。

認定試験を受験される方…自己学習の方…興味のある方…などと、皆さんが対象です。多くの参加を歓迎します！

◇ 認定一般検査技師制度の認定更新要件が決まりました…

詳しくは技師会ホームページの日臨技認定センター欄をご覧ください。非公開および公開特例試験合格者の方は資格更新までの期間が短いため別途 郵送にて資格更新要件を連絡いたします。

◇ 認定染色体・遺伝子検査師制度がかわります…

認定染色体・遺伝子検査師については、染色体(検査)分野の認定を実施してきましたが、その業務が染色体検査と遺伝子検査に分かれているため、今年度より遺伝子(検査)分野の認定試験も実施致します。

したがって、認定は

- 認定染色体・遺伝子検査師制度(染色体検査部門)
- 認定染色体・遺伝子検査師制度(遺伝子検査部門) の 2 種類に分かれます。

◆ 認定試験の日程が決まりました…(詳細は日臨技ホームページをご覧ください)

- 認定一般検査技師制度認定試験
 - ・試験日 : 平成 21 年 11 月 15 日(日)
 - ・受験申請書受付 : 平成 21 年 9 月 24 日から 10 月 9 日まで
- 認定心電検査技師制度認定試験
 - ・試験日 : 平成 21 年 10 月 25 日(日)
 - ・受験申請書受付 : 平成 21 年 9 月 1 日から 9 月 18 日まで
- 認定染色体・遺伝子検査師制度認定試験
 - ・試験日 : 平成 21 年 12 月 6 日(日)
 - ・受験申請書受付 : 平成 21 年 10 月 1 日から 10 月 23 日まで

編集後記

- ◆ 今後は学会に思う記事が多くなりました。投稿された方、お電話いただいた方にお礼申し上げます。これからも、どんどんご意見を下さい。会報は会員が作る会員のページです。
- ◆ 学会に参加された学生さんからいただいたお礼の手紙…すきっとした文章で、勉強させられました。技術畑の人の日本語は可笑しいです。それも年齢がかさむほど可笑しくなります。
- ◆ 「それは無いだろう！そんな人は若い時から変だよ！」失礼しました。 【TAKADA】



次号をお楽しみに…！